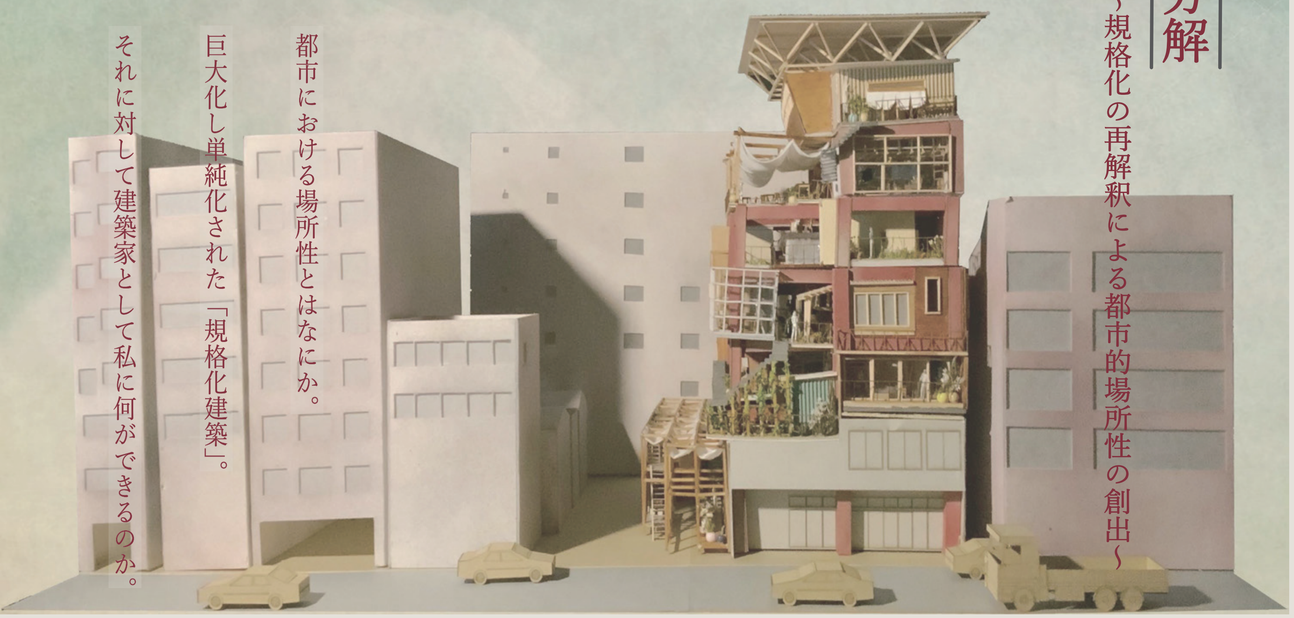
東海－伊藤稚菜

住分解

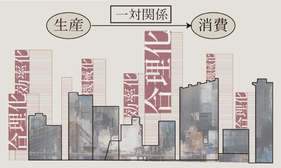
～規格化の再解釈による都市的場所性の創出～

都市における場所性とはなにか。
巨大化し単純化された「規格化建築」。
それに対して建築家として私に何ができるのか。



01 社会背景

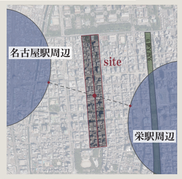
01-1. 生産消費の一対関係



機械化の際生まれた規格化による工業製品は誰にも扱いやすく、大量生産を可能で合理的といわれる。その一方で規格製品は**用途を限定し汎用性をなくした**。量やスピードが求められる都市の建築はオーナーの生産性や施工面から与える側の都合で建てられできた建築はハコとして用途を消費し、ヒトはその中で暮らしを消費しており、**本来の消費の立ち位置が逆転**している。**合理性を求めているようで不条理な**

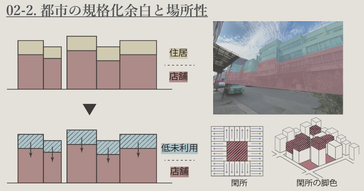
02 敷地分析

02-1. 長者町・閑所変遷



当敷地は名古屋市長者町の繊維業を営むビルオーナーの滝さんのビル。名古屋駅と栄駅の間にありながら**職住関係の変化と衰退により都市ウラとなった**。滝さんは長者町の理事長で街の賑わい創出に力を入れているが、流通構造の変化などにより繊維だけではなかなか難しい状況にある。滝さんとヒヤリングを進めながら自分は**建築家として都市に何ができるかを考えこの建物を都市ウラのケーススタディとした。**

02-2. 都市の規格化余白と場所性



暮盤目開発の際に生まれたコミュニティの場となっていた閑所は床余りや周辺建物の駐車場化により**膨れ上がり機能していない**。人や物の動きが激しい都市において閑所はそれらを受け止めるたまり場としてのポテンシャルがある。**閑所を希釈し都市特有の立体性を持たせ人の暮らしをため込むことで地方とは違う都市ならではの場所性が生まれるのではないかと考える。**

03 提案

03-1. 規格化の再解釈と都市的場所性

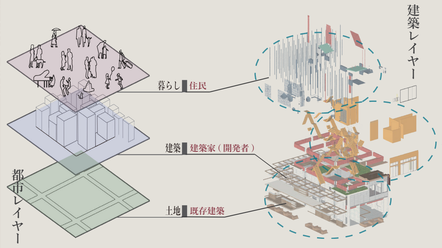
用途を定める「**規格化**」まちに根付く「**場所性**」。本提案では建て替え期を迎えた建築に対し、都市特有の住み替え行動と住宅規格の分解を建築家目線で行い、**今後の建築」都市での人の暮らしと都市における場所性を再考する。**

03-2. 住機能の分解による解放

様々な間取りが存在するが根本は**設備の機能による管理**や**施工面に起因**し身体的、個人的自由度が低く住民は無自覚に制限を持ち生活する。**住機能を分解、設備の機能を抜き、拡張、共有することで住宅規格から暮らしを解放する。**

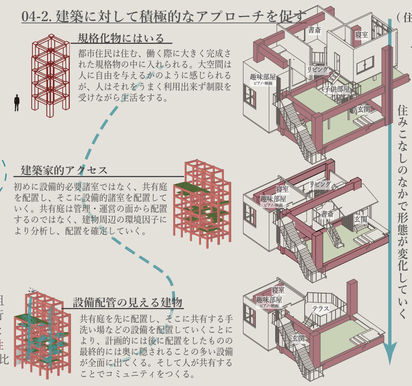
04 建築操作

04-1. 開発によるレイヤー分けと積層による都市的場所性



設備的間取りから解放された住民は**個人的因子、環境的因子**からそれぞれの間取りを組んでいく。一般的な集合住宅での暮らしが水平行動が主なのに対し、本建築では垂直行動をも取り入れた自由な間取りの確保が可能となる。人の暮らしの時間軸が異なるのと同様にこの建築は常に更新されていき新しい顔となっていく。この積層が**都市的場所性**である。まち単位でも繁華街は高層建物建ち並び、「垂直行動」を主とするのに対し、比較的低層で、同業者コミュニティがある長者町においては「水平行動」も期待できる。

04-2. 建築に対して積極的なアプローチを促す



規格化物にはいる

都市住民は住む、働く際に大きく完成された規格物の中に入れられる。大空間は人に自由を与えるかのように感じられるが、人はそれをうまく利用出来ず制限を受けながら生活をする。

建築家的アクセス

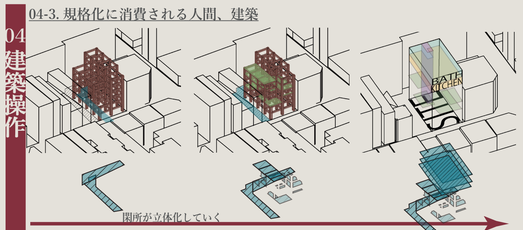
初めに設備的必要諸室ではなく、共有庭を配置し、そこに設備的諸室を配置していく。共有庭は管理、運営の面から配置するのではなく、建物周辺の環境因子により分析し、配置を確定していく。

設備配管の見える建物

共有庭を先に配置し、そこに共有する手洗い場などの設備を配置していくことにより、計画的には後に配置をしたものの最終的には奥に隠されることの多い設備が全面に出てくる。そして人が共有することでコミュニティをつくる。

04 建築操作

04-3. 規格化に消費される人間、建築



規格化からの解放

大きな建築操作として**躯体だけ**にビルを分解する。今まで壁に隠れていた躯体が表に現れることによりまちに対してそびえたっていた壁のような存在が分解され、通りから**閑所の様子が伺える**ようになる。

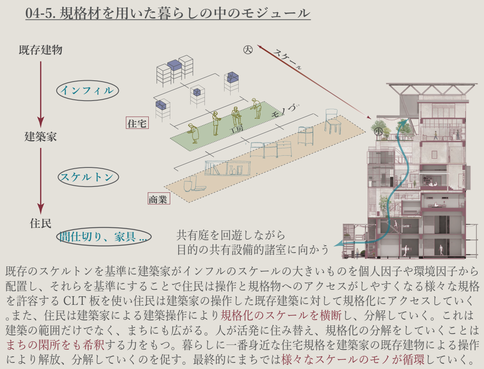
公開空地の配置

建築の間取りを縛っていた設備所室を躯体から解放する。1住宅につき1つ設けるルールが崩されることにより、人は設備的間取りの縛りから解放される。そこに**管理目線で計画されていた公開空地を庭に変換する。**

設備所室の配置

必要所室から設備系を除き、余白空間をつくり公開空地の庭を設置する。設備所室を共用部とすることにより人は個人因子や環境因子により間取りを組むことができる。**自由な区画で暮らすことにより規格からの解放となる。**

04-5. 規格材を用いた暮らしの中のモジュール



共有庭を回遊しながら
目的の共有設備的諸室に向かう

既存のスケルトンを基準に建築家がインフルのスケールの大きいものを個人因子や環境因子から配置し、それらを基準にすることで住民は操作と規格物へのアクセスがしやすくなる様々な規格を許容する CLT 板を使い住民は建築家の操作した既存建築に対して規格化にアクセスしていく。また、住民は建築家による建築操作により**規格化のスケールを横断**し、分解していく。これは建築の範囲だけでなく、まちにも広がる。人が活発に住み替え、規格化の分解をしていくことは**まちの閑所をも希釈**する力をもつ。暮らしに一番身近な住宅規格を建築家の既存建物による操作により解放、分解していくのを促す。最終的にまちでは**様々なスケールのモノが循環**していく。

■住み分ける住人

住民は各々の個人因子や環境因子から建物内、まちで自由な間取りを区画し、**住み分け、住み替え**をしていく。暮らしに一番身近な住宅規格を建築家の既存建物による操作により解放、分解していくのを促す。最終的にまちでは**様々なスケールのモノが循環**していく。

入り乱れる設備配管

一般的に設備の配管は管理・運営のしやすさからコアでまとめることが多い。本提案では人間の個人因子を第一に考えたものであるため、建物内を人が回遊するような共有庭に分散させる。一見不合理的に見える上層から下ってくる配管は自分以外の住民の存在を無意識に住民に知らせてくれる。

共有のテラス・キッチン

食を共にすることにより、食育に繋がる。洗濯待ち、お風呂待ちなど長者街の立体待ち合わせ場所となる。テラスに設けられた畑ではカフェのオーナーが季節の野菜を育てている。

scale 0 1 3 6m

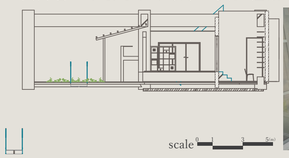
4F：短期滞在者の間取り

短期滞在者は日本的に寝室と小さな書斎を持っており、それ以外は個人の欲求によって組む。長期滞在者との違いは共有の勉強部屋や個室などの共有の部屋が階に設けられているため個人で部屋を持たなくても住むようになっている。

scale 0 1 3 6m

老夫婦の間取り

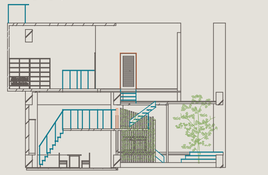
移動が大変なためエレベーターでの移動を基本とし、動線を組み１フロアで生活する。部屋数自体は多いが、趣味の部屋など日常使いしない共有の部屋があるため、高齢者のみまもりや家事の負担軽減にもなる。



scale 0 1 3 6m

サラリーマン家族間取り

集合住宅特有の水平行動に加え、積極的に垂直行動を誘発させる間取りとする。立体敵に間取りを組むことにより子どもたちが独立した際に１フロアに小さく住み替えることが可能となる。



scale 0 1 3 6m

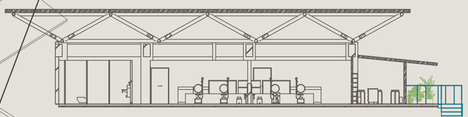
都市の木質化のベンチ

都市の木質化に取り組む長者町では本提案のまちの工房にて地域住民が木で休憩するための空間であったり、販売するための空間をそれぞれが創作していく。

scale 0 1 3 6m

まちの大浴場

設備的諸室の１つを地域に共有することにより地域のつながりにくわえ、住民の間取り規格を解放することにもつながる。他のビルより少し高い位置にある浴槽からは長者街を一望することができる。未来の長者街に期待を膨らませながら。



scale 0 1 3 6m

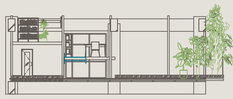
共有のコインランドリー

最上階に地域のコミュニティの空間を設けることにより、地域住民は各共有庭を通りながら目的の場所へと向かう。天井に設けられた竿に洗濯物を干し、乾くのを待つ間、カフェでお茶をする。

scale 0 1 3 6m

5F: 宿泊者の間取り

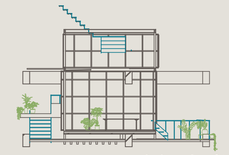
宿泊者は他の宿泊者のように植物を育てて庭を作るのではなく、自らが庭で活動することにより庭を彩る。部屋も簡易的な作りになっており、短いスパンで人が入れ替わりその都度間取りを組ことを可能にする。



scale 0 1 3 6m

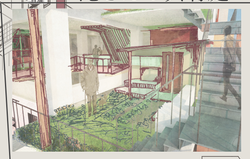
まちの工房

住民は自分の生活を充実させるために工房を利用し、大きな間仕切りから小さな家具まで様々なものを製作する。最終的にこの提案が長者街に広がると街の工房となっていく。

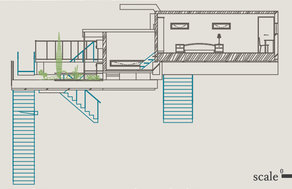


scale 0 1 3 6m

滝さんの共有庭



滝さんは自分の庭だけでなく、住み替えを行うまえの庭も近く感じることができる。ガーデニングが趣味の奥さんは皆の通道となる庭に季節の花を植える。



scale 0 1 3 6m

一坪ショップの木組み

この提案地域住民は自発的に木組みでそれぞれの趣味のための空間を作るようになる。これによりまちに至るところにある駐車場化した空地は閑所として脚色され、まちには立体的な閑所が形成されていく。